

会計様式第 1

支 出 伝 票

会派名	代表者	経理責任者	会計年度	整理番号										
フォーラム犬山	鈴木伸太郎	山田拓司	平成 30 年 度	3										
支 出 項 目	☒ 1 研究研修費 ☐ 4 資料作成費 ☐ 2 調査研究費 ☐ 5 広 報 費 ☐ 3 資料購入費 ☐ 6 広 聴 費			平成 30 年 6 月 20 日										
支 払 金 額	<table border="1"> <tr> <td>金 額</td> <td></td> <td></td> <td>¥</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>円</td> </tr> </table>				金 額			¥	5	7	0	9	0	円
金 額			¥	5	7	0	9	0	円					

使 途 内 容 関西学院大学経営戦略講座「自治体監査のための監査論入門」

《領収書添付欄》

交通費 35,490 円 (明細別紙)

研修参加費 21,600 円

計 57,090 円

(B)
2018年度
関西学院大学経営戦略研究科

受講料 領収書

¥ 21,600	
フリガナ	スズキノリタロウ
氏名	鈴木伸太郎
注意 1. 講座開始1週間前の時点 からキャンセルによる受講 料返還はいたしかねます。 2. 金融機関出納印のないも のは無効とします。 3. 取扱金融機関の出納印を もって、関西学院の領収と みなします。 4. 納入締切日の出納印まで 有効です。	



出張旅費明細 (レ…経由 - …経由せず 新幹線特急券は自由席)

	往路					
日付	5月22日		5月29日		6月5日	
経由地	経由	交通費	経由	交通費	経由	交通費
楽田			出発		出発	
			(名鉄)		(名鉄)	
犬山	出発		レ	550	レ	
	(名鉄)					660
岐阜	-	550	レ		-	
			(東海道線)			
名古屋	レ		-	3,020	レ	
	(新幹線)	3,350			(新幹線)	3,350
大阪	到着	2,690	到着		到着	2,490
往路計		6,590		3,570		6,500

	復路					
日付	5月22日		5月29日		6月5日	
大阪	出発		出発		出発	
	(東海道線)		(新幹線)		(新幹線)	
米原	レ	3,350	レ	3,350	レ	3,350
	(新幹線)	1,730		2,690		2,490
名古屋	レ		レ		レ	
	(名鉄)		(名鉄)		(名鉄)	
岐阜	-	550	-		-	
				660		660
犬山	到着		レ		レ	
楽田			到着		到着	
復路計		5,630		6,700		6,500
往復計		12,220		10,270		13,000

Kwansei Gakuin University Institute of Business and Accounting

経営戦略講座について

現代の社会で本当に役に立つ知識というのは、実務に役立つ知識とそれを活用するための技術の両輪が揃っている必要があります。また、その水準は日々高まっているとともに制度や規則の変化によっても大きな影響を受けます。本講座は、関西学院大学経営戦略研究科が実際の授業で展開している内容をもとにして、そのエッセンスを研修プログラムとして提供するものです。交通至便な関西学院大学大阪梅田キャンパスを中心に開講します。ビジネススクールへの進学を検討されている方にお勧めの講座です。なお、講座に追加があった際はウェブサイトでお知らせいたします。

■定員：25名 ■受講料：21,600円 ■会場：関西学院大学 大阪梅田キャンパス 〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19アブロードタワー14階・10階

1 自治体監査のための監査論入門

5月15日～6月5日 毎週火曜日 全4回 19:00～21:30



講師：石原俊彦教授

第30次地方制度調査委員会、京都府参事(業務改善担当)、名古屋市交通事業経営健全化委員会委員長、豊田市長公約審議会、豊田市長行政改革委員会委員長など地方自治体の公職を多数歴任。前国際公認会計士協会、現在、英国助許公共財務会計協会(CIPFA)本部理事・日本支部長、博士(商学)。英国における地方自治体のマネジメントとガバナンスを研究し、英国自治体関係者に最も有名な日本人研究者の一人、元英国バーミンガム大学客員教授。自治体職員意識改革と組織風土改革を目指す全国都市改善改革実践研究会の審査委員長を初回(2006年度)～連続12年務めている。自治体大学校や市町村アカデミー、市町村国際文化研修所でも講義経験多数。1996年第24回日本公認会計士協会賞、1998年第12回日本内部監査協会賞、2007年中小企業研究奨励賞・本賞を受賞。

- | | | |
|-----|---------------------|------------------|
| 第1回 | 5/15(火) 19:00～21:30 | 財務諸表監査の基本フレームワーク |
| 第2回 | 5/22(火) 19:00～21:30 | 監査計画の立案と内部統制 |
| 第3回 | 5/29(火) 19:00～21:30 | 監査証拠と監査リスクアプローチ |
| 第4回 | 6/ 5(火) 19:00～21:30 | 監査手続と監査報告 |

■講座概要

地方自治法第150条が改正されて都道府県や政令指定都市では、内部統制の構築が義務付けられました。全国都市監査委員会でも監査手帳が改訂され、本格的に監査リスクアプローチが導入されます。従来の自治体の監査は事前監査で、手続適正性の監査と目録型で進められてきた。監査意見や監査結果も、保証型ではなく報告型で発表されることになりました。しかし、市長が内部統制の状況を評価して作成する報告書を、監査委員会が監査を行う段階においては、監査を指導型で進めることはもはや困難になっています。監査の学習は決して難しいものではありませんが、これまで以上に事務引継書や前任者の監査報告の内容をそのまますべて受け止めるだけでは、監査の基本的な事項を理解することが困難です。本講座では、通常90分授業で25回程度で実施される大学学部レベルの監査論の基礎知識、自治体監査に必要な部分に絞って、かつ、最も基本的な内容にのみ焦点を絞ること、10時間で一通りマスターしようという意図で、講義の主な対象は民間企業の財務諸表監査ですが、この内容を理解することが、自治体監査を理解する最も早い道です。本講座を受講することで、自治体監査関係者の多くが、従来とは異なる視点で監査実践に従事できるようになることが期待されます。なお、本講座の終了證書を取得した受講者(自治体職員・地方議員・監査委員他)は、英国助許公共財務会計協会(CIPFA)日本支部が認定する「地方自治会計士」の資格取得が可能となります。

■受講をお勧めしたい方

- ・公認会計士の資格を持たない監査委員
- ・自治体の監査委員事務局長
- ・民間企業の財務部長等が公認会計士の監査対応を行っているビジネスマン
- ・関西学院大学ビジネススクールの自治体・医療・大学プログラムへの進学を検討中の皆さん 等

■受講に必要な知識・実務経験

- ・自治体での監査実務経験がなくても構いません。ただし、必須ではありません。

2 マーケティング1

※マーケティング2と同じ内容です。

6月20日～7月11日 毎週水曜日 全4回 18:30～21:30



講師：山本昭二教授

神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了、関西学院大学商学部教授を経て2005年より現職。著書に「サービス・オリシティ」(千倉書房、1999年)、「サービス・マーケティング入門」(日経文庫、2007年)、訳書に「バリュー・プロフィット・チェーン」(日本経済新聞社、2004年)などがある。日本商業学会賞優秀賞を受賞。日本マーケティング学会理事、日本消費者行動研究学会理事。2013年度より日本消費者行動研究学会会長。主に顧客満足、顧客維持、サービス品質の評価に関する研究を行っている。またコンピュータ上でWebによるアンケート、実験システムの開発を行っている。

- | | | |
|-----|---------------------|-------------------|
| 第1回 | 6/20(水) 18:30～21:30 | マーケティングの役割 |
| 第2回 | 6/27(水) 18:30～21:30 | マーケティングの基本戦略 |
| 第3回 | 7/ 4(水) 18:30～21:30 | 顧客の好みと製品開発 |
| 第4回 | 7/11(水) 18:30～21:30 | リレーションシップ・マーケティング |

■講座概要

現代のマーケティング戦略は、セグメンテーションとターゲティングを中心とした「選択と集中」戦略と、顧客とのリレーションシップを重視するリレーションシップ・マーケティングの二つの側面があります。この二つの戦略は決して相矛盾するものではなく、補完的な性格を持っています。本講座では、まずセグメンテーション、ターゲティングからポジショニングに至る道筋を平易に説明します。その後で顧客満足から顧客維持戦略に至る道筋を解説します。MBAの授業で行われる方法を利用してケース教材を使ったディスカッションを行います。

■受講をお勧めしたい方

- ・マーケティングに関して勉強したいと考えている初学者の方
- ・ある程度マーケティングについては知識があるが、それらの知識の総合的な理解を深めたいと思っている方

■受講に必要な知識・実務経験

- ・マーケティングについて特に知識を持っている必要はありません。

3 経営戦略1

※経営戦略2と同じ内容です。

7月13日～8月10日 不定期開催 全4回 18:30～21:30



講師：佐藤善信教授

1981年神戸商科大学経営学研究科博士後期課程単位取得退学、流通科学大学教授を経て2005年より現職。1993年9月より1年間、ビジネススクール(BS)の教育・運営を研究するために、ヴァージニア大学ダートマスに留学。帰国後、1996年より流通科学大学中BS校長を2期務める。2013年から1年間、アントレプレナーシップとイノベーションの研究にミズーリ大学BSに留学。最近の著書に「ケースで学ぶケーススタディ」(監修、同文館、2015年)、「企業家精神のダイナミクス」(監修、関西学院大学出版会、2017年)などがある。授業は自作のケースを活用したケースメソッドを、また研究方法も「現場と理論の往復運動」を重視したエスノグラフィやアクションリサーチをベースにしている。神戸大学や小樽商科大学BSの外務評価委員も歴任。日本商業学会学会誌「流通研究」編集長、日本マーケティング学会理事。2010年より放送大学客員教授。

- | | | |
|-----|---------------------|-----------------|
| 第1回 | 7/13(金) 18:30～21:30 | 経営戦略とは何か? |
| 第2回 | 7/26(木) 18:30～21:30 | 競争戦略と経営戦略の関係 |
| 第3回 | 8/ 3(金) 18:30～21:30 | 経営戦略の基礎としての経営資源 |
| 第4回 | 8/10(金) 18:30～21:30 | 経営戦略の総合ケースの分析 |

■講座概要

経営戦略の重要性は理解しているのだが、横文字のカタカナばかりで分かりにくい。会計や販売といったスペシャリストとしての勉強には関心があるのだが、ゼネラリストとしての経営の総合的な勉強は範囲が広すぎてモチベーションが湧かない。経営戦略の勉強に、このように思っている方が多いのではないだろうか。本講座では、できる限り経営戦略を身近に感じることができるよう授業を行い、授業目的である経営戦略の「基本的な考え方と分析ツール」を、実際の企業のストーリーをまとめたケースを使用して、等身大のレベルで自由に使いこなせるようにしたいと考えております。

■受講をお勧めしたい方

- ・経営戦略に関するベーシックな知識を得たいと考えている方
- ・経営戦略の理論を実践に応用するスキルを養いたい方
- ・今後、経営戦略の立案、策定、実行に関わりたと思っている方
- ・ビジネススクールへの入学を考えている方

■受講に必要な知識・実務経験

- ・実務経験が3年以上の方が望ましいです。
- ・経営戦略についての専門知識を身につけている必要はありません。
- ・この分野について初めて講義を受ける方もわかるように講義します。

4 イノベーション・マネジメント

8月1日～29日 毎週水曜日(8/15※) 全4回 18:30～21:30



講師：玉田俊平教授

ハーバード大学にてマイケル・ポーター教授のゼミに所属。競争力と戦略の関係について研究するとともに、クレイトン・クリステンセン教授からイノベーションのマネジメントについて指導を受ける。研究・技術計画学会評議員。日経ITイノベーション会議アドバイザー・ボードメンバー。平成23年度TEPIA知的財産学術奨励賞「TEPIA会長大賞」受賞。最近の著書に「日本のイノベーションのジレンマ 破壊的イノベーションになるための7つのステップ」(経済学、2015年)、「イノベーション入門」(中央経済社、2015年)、「イノベーション政策の科学:SBIR政策の評価と未来産業の創造」(東京大学出版会、2015年)、監訳に「イノベーションへの解」(経済学、2003年)、「イノベーションのジレンマ」(経済学、2000年)などがある。

- | | | |
|-----|---------------------|---------------------------------|
| 第1回 | 8/ 1(水) 18:30～21:30 | イノベーションとは何か? |
| 第2回 | 8/ 8(水) 18:30～21:30 | イノベーションのジレンマ-技術革新が巨大企業を滅ぼすとき |
| 第3回 | 8/22(水) 18:30～21:30 | イノベーションのジレンマ-技術革新が巨大企業を滅ぼすとき(2) |
| 第4回 | 8/29(水) 18:30～21:30 | 技術を競争優位に変えるには |

■講座概要

安倍政権の2本柱は「生産性革命」と「人作り革命」ですが、「生産性革命」とは、自社の製品やサービスを差別化することによって、同じインプットから他社には真似できないより価値の高いアウトプットを生み出す「プロダクトイノベーション」や、より少ないインプットから従来のアウトプットを生み出す「プロセスイノベーション」によって達成されます。すなわち、「生産性革命」とは「イノベーション」そのもののことです。また、企業の広報資料に「我が社は○○分野のイノベーションを担っています」と謳われているのをよく目にします。しかし、「イノベーションとは何ですか?」と聞いてみると、人によって答えはまちまちで、イノベーション(発明)との区別もあいまいな場合が多いようです。そこで、本講義ではイノベーションとは何か、イノベーションを通じて企業の競争優位を構築するにはどのようにすれば良いか、などについて理解を深めます。

■受講をお勧めしたい方

- ・企業のトップマネジメント(CEOやCTO)を目指す方
- ・技術を競争優位に変えるやり方を学びたい方
- ・技術を通じたベンチャーを目指す方

■受講に必要な知識・実務経験

- ・とくにありませんが、新しいことにワクワクする知的な好奇心を持った方が参加を期待します。